

第2学年 図画工作科学習指導案

2年2組 22名

授業者 木村 美穂

授業場 図工室

1 題材名 ぶくぶく あわあわ なにに見えた？

「絵に表す A表現 (1) イ、(2) イ、B鑑賞 (1) ア、[共通事項] (1) ア、(1) イ」

2 研究主題とのかかわり

ICTの効果的な活用、子供と題材や他者との豊かなかかわり

3 題材設定の理由

本題材は、シャボン色水でつくった泡を紙に写し取り、偶然できた形や色、模様から想像を広げて絵に表すことをねらいとしている。色シャボンの模様づくりを通して、児童は、楽しさを十分に味わう中で形の面白さや泡でしか表現できない模様の美しさに気付く。次に、できあがった泡の形にクレパスやマーカー、コンテなどの自分で選んだ描画材料で想像したことをかき加えることにより、表現を工夫することができる。その際、泡の形や色、模様について想像したことや感じたことについて伝え合ったり、全体の様子や互いのイメージを友達と話し合ったりしながら、自分たちの体よりも大きな紙にかくことにより、さらに想像の幅を広げて活動を進めていくことができる。そして、最後にできあがった絵のまわりに集まり、互いの作品を紹介し合うことで、泡の形から想像し合う面白さや感じ方の違いに気づき、豊かな感性を育むことができると考えた。

本学級の児童は、明るく素直で、図工の時間を楽しみにしている児童も多い。休み時間に好きな絵をかいて見せ合う姿も多く見られる。6月に行った絵に表す題材「ぼかしあそびで」では、クレパスをぼかしてできた形や色を生かし、想像したことを絵に表す活動を行った。好きな形の型紙をつくり、画用紙に繰り返し写すことで、そこから新しい形を見付ける面白さを味わうことができた。しかし、かきたいものがどんどんひらめき絵に表す活動を楽しむ児童がいる一方で、思ったように表現ができず意欲が失われてしまう児童や、自分のかいた絵に自信がもてず不安そうにしている児童の姿も見られた。活動の様子を見てみると、上手にかくことがゴールとなり、思いのままに表すことを楽しむことができてないと感じた。そこで、友達と互いの作品のよさを伝え合い認め合いながら、共に作品をつくり上げる楽しさを味わわせたいと思い、本題材を設定した。

指導に当たっては、児童がシャボン色水を用いて泡の表し方を何度も試し、模様づくりに十分に親しむことができるよう、活動がしやすい場とたくさんの紙を用意する。そして、自然と対話が生まれ、互いの気づきを交流しながら活動ができるように、小グループに分け、泡を「つくる」人と泡で「かく」人の役割を交代しながら模様づくりを進めていく。その際、泡の感覚を楽しみながら思い通りに表現しやすいように、手のひらに泡をのせ紙に置くようにして模様をつくるよう促す。全体で大きな紙に模様づくりをするときには、1つの絵になることを意識し、互いの色や全体の様子を見て、どこで新しい泡をつくったらよいか、色が重なるとどんなふうになるかを考えながら活動ができるようにする。さらに、想像したことを泡にかき加え絵に表す活動では、大きな紙にかく前に、一人1台タブレット端末を用意し、撮影した泡の画像に個人で考えてかく時間を設け、本時の活動のイメージ

をもつことができるようにする。タブレット端末を用いることによって容易にかき直すことができ、絵に表すことを不安に感じている児童も友達のアイディアを参考にし、安心して次の活動に移ることができる。また、1つの例を挙げて同じ泡の模様を取り扱うことで、形が同じでも見る視点が変わると多様な見方ができる面白さにも気付かせたい。イメージが膨らんだところで、実際に自分たちのつくった泡の形にかき加える活動に移る。自分なりに表し方を工夫することができるように、自由に描画材料（クレパス、マーカー、チョーク、コンテなど）を選べるようにする。最後に鑑賞の活動では、それぞれがかいた作品のところへ友達を招き、対話的に互いの作品を紹介し合う。言葉で思いを伝え合い認め合うことによって、個々の表現のよさや感じ方の違いを感じられるようにする。そして、このような共につくる楽しさや互いのよさを分かち合う経験を積み重ねていくことで、思いのままに表現することを楽しみ、つくり出す喜びを感じられる子どもを育てていきたい。

4 題材の目標

- (1)・シャボン色水を用いていろいろな表し方を試すことを通して、そこから生まれる形や模様の面白さや違いに気付く。
 - ・クレパスやマーカー、コンテなどに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ表したいことを基に表し方を工夫して表す。 (知識及び技能)
- (2)・泡の形や色、模様から想像したことを基に、表したいことを見付け、表したいことに合わせて描画材料を選び、どのように表すかについて考える。
 - ・作品の面白さや楽しさ、表したいことや泡の形や模様を生かした表し方について、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3)・シャボン色水で様々な模様をつくり、好きな形や色を見付けて思いのまま表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・シャボン色水を用いていろいろな表し方を試すことを通して、そこから生まれる形や模様の面白さや違いに気付いている。 ・クレパスやマーカー、コンテなどに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	・泡の形や色、模様から想像したことを基に、表したいことを見付け、思いに合わせて描画材料を選び、どのように表すかについて考えている。 ・作品の面白さや楽しさ、表したいことや泡の形や模様を生かした表し方について、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わうとともにシャボン色水で様々な模様をつくり、好きな形や色などを見付けて思いのまま表す活動に取り組もうとしている。

6 指導計画（4時間 本時3／4）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・ 泡の模様のつくり方を知る。 ・ 泡で様々な模様を表し、繰り返し試す。	知 ◎	・ 様々な泡のつくり方を試し、そこから生まれる形や模様の面白さや違いに気付いている姿を観察し、記録に残す。 （観察、対話、撮影）
2	・ グループごとに大きな紙に泡の模様づくりをする。	知 ○	・ いろいろな形の泡をつくり、形や模様の面白さや違いに着目している姿を観察する。 （観察、対話、作品）
3	・ 見立て遊びをし、タブレット端末で自分が想像したものを、絵に表す。 ・ 自分たちのつくった泡の形から想像したものをかき加え、表し方を工夫して表す。	技 ◎ 思 ◎ （発想や構想）	・ クレパスやマーカー、コンテなどを使って、表したいことを基に表し方を工夫して絵に表している様子を観察し、記録に残す。 （観察、対話、作品、撮影） ・ 泡の形や色、模様から想像したことを基に、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている様子を観察し記録に残す。 （観察、対話、作品、撮影）
4	・ さらに作品に工夫を加える。 ・ 互いの作品を紹介し合い、表し方のよさや面白さを味わう。	思 ◎ （鑑賞） 態 ◎	・ 友達の作品から、泡の形や色を生かした表し方を見付けたり、作品のよさや面白さを伝えたりしている様子を観察し、記録に残す。 （観察、対話、作品カード） ・ 活動全体を通して把握し、記録に残す。 （観察、対話、作品）

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

7 本 時

(1) 目 標

泡の形や色、模様から想像したことを基に、表したいことを見つけ、自分なりに表し方を工夫して絵に表すことができる。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意事項 ○評価【観点】(評価方法)
3 分	1 本時のめあてを確認する。	・ 前時までの活動を振り返り、本時の活動のめあてをもつことができるようにする。
	あわあわをへんしんさせよう！	
12 分	2 タブレット端末を用いて、泡の形や色を基に見立て遊びをする。	・ 撮影した画像を拡大や縮小して見たり、見る向きを変えたりするよう声をかけることで、想像を広げ、同じ泡の形でも多様な見方ができるようにする。
25 分	3 自分たちのつくった泡の形から想像したことを基に表し方を工夫して絵に表す。	・ 絵を床に置き、泡の形を遠ざかって見たり、見る向きを変えたりすることができる場を設定することで、視野を広げて想像できるようにする。 ・ 表したいものに合った描画材料を選べるように、それぞれの描画材料の特徴を紹介し、黒板に掲示する。 ○クレパスやマーカー、コンテなどを使って、表したいことを基に表し方を工夫して絵に表している。 【技能】(観察、対話、作品、撮影) ○泡の形や色、模様から表したいことを基に、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】(観察、対話、作品、撮影)
5 分	4 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	・ 自分の活動を振り返り、工夫したことや感想を伝え合う時間をとることで、次時への期待と見通しをもつことができるようにする。

(3) 評価及び指導の例

① 技能

「十分満足できる」と判断される状況	泡の形の特徴や、色・模様の感じを生かして、表し方を工夫して絵に表している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	対話を重ねてどんなものを表したいか児童の思いをつかみ、その思いに共感しながら、表現の提案をする。

② 思考・判断・表現

「十分満足できる」と判断される状況	泡の形の特徴や色・模様の感じから、表したいことを見付け、近くにいる友達の作品とのつながりを考えながら、描画材料の特徴を生かして、自分なりに楽しい表し方を考えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	やわらかい感じやかっこいい感じなど、イメージがわくようにやりとりし、それにふさわしいと思う描画材料を選ぶように促す。他の友達の作品を自由に見に行かせ、表現の面白さを感じさせ、自分の活動のヒントにつなげる。 タブレット端末で泡の形や模様から想像しながら見立て遊びをしたように、遠ざかったり見る向きを変えたりして、いろいろな見方をするように声かけをする。また、児童と対話を重ねて、色から想像する、形から想像する、模様が何に見えるかななど多様な見方を提案する。

授業記録

題材名 ぶくぶく あわあわ なにに見えた？

展開

教師のはたらきかけ	児童の反応
1 本時のめあてを確認する。 ○前の時間にみんなで泡の模様作りをしましたね。今日は、「あわあわをへんしんさせよう」です。泡の色や形から想像したことを絵に描き足して、さらに素敵な作品にしましょう。先生が描いた作品です。どう。 2 タブレット端末を用いて、泡の形や色を基に見立て遊びをする。 ○形をよく観察すると、ウサギが走っているように見えたから、クレパスとマジックでかき加えてウサギにしたよ。1つ目のポイントは、「泡の形や色からイメージする」です。でも、次のだとうかな。 ○そうだね。せっかくきれいな泡ができていたのに、塗りつぶしちゃうと見えなくなっちゃうね。2つ目のポイントは、「泡を塗りつぶさない」。泡の模様を生かして必要なところだけを描き足して絵にしましょう。いきなりでは難しいのでまず、練習でメタモジに描いてみましょう。 ○みんなはこの形、何に見える。 ○どこが。	(タブレットのメタモジを開いて席に置き、前に集まる。) あわあわをへんしんさせよう！ ○かわいい。上手。 ウサギが人参持ってる。 走って逃げてる。 ○だめ！せっかくつくったのに、泡感が無くなった。 (席に戻り、タブレットのワークシートの泡に注目。) ○ミッキー。 ○耳に見えた。 ○赤いところが力持ちに見える。ムキムキ ○食パンみたい。水色の上のやつ。 ○バナナ。バナナは細くて黄色だし。

教師のはたらきかけ	児童の反応
○じゃあ、少し時間をとるので、想像したものを自由にかき足してみましよう。 ○みんながかいたものを見てみましょう。 ○違う泡に注目している人もいるね。囲んでも見やすいね。違う泡に注目している人もいるね。囲んでも見やすいね。 ○最後に3つ目のポイント「かく用具をえらぼう」です。今日はいろんなかく用具があります。何があるかというと、クレパス・マーカー・コンテ・チョークです。（かきながら紹介） ○白はどんなところに使う。 ○クレパスは。 ○どれでかいたら自分の作品がよくなるか、考えて使ってください。まず、絵の周りに集まって、泡の形をよく見てみよう。「ひらめきポイント」を意識するとかきたいものが見えてくるよ。（「ひらめきポイント」を貼る） 3 自分たちのつくった泡の形から想像したことを基に表し方を工夫して絵に表す。 ○イメージが膨らんだかな。では絵を描いていきましょう。一つ一つ思いを込めて描きましょう。途中で描くものを変えてもいいよ。でも、描きたいものが一緒になったらどうする。 ○一緒に描いても、相談して譲ってもいいね。ではどうぞ。（声をかけながらまわる。つまづいている児童に支援する。） ○これは何。 ○ここに亀がいるからつながるね。模様をつけている人もいるね。これは何。	（各自、席に戻りタブレットで想像したものをかき足していく。） （テレビの前に集まる。） ○色のところ。 ○色がいっぱいある。見やすい。 ○恐竜。こっちが尻尾、こっちが頭。 ○森。 ○一緒に描く。 ○亀。これが親。亀の親子。 ○木

教師のはたらきかけ	児童の反応
○緑色からかんがえたんだね。 ○ダイナミックなのができたね。 (時間になり次の活動へ) 4 本時の学習のふりかえりをする。 ○相手チームの作品で、いいなと思った作品を紹介してください。いいなと思ったところでしゃがんでください。 ○あわをえびの模様にしてえびにしていますね。 ○大きな泡を使っているからできたんだね。 ○どんなところがいいと思った。 ○海にはジンベイザメもいるし、かっぱもいていいね。 ○みんなが協力したおかげでこんなに素敵な作品ができたね。もっとかきたかったね。明日またかいて仕上げていこうね。	○いろんないきものがいていいな。 ○(本人) えびとか、たことか、かめ。 ○大きくていいな。 ○(本人) ここがへび。 ○蜂。羽もあっていい。 ○(本人) ここに蜂の巣があったから蜂をかい た。 ○大きいのがいる。 ○(本人) ジンベイザメ。とび上がるとる。 ○顔がある。 ○かっぱ。

研究会記録

題材名 ぶくぶく あわあわ なにに見えた？

発言者	発言内容
授業者	今回の授業でこだわった所が5つある。①活動・場・道具などでわくわくするような設定。②寝そべってかくなど、体全体を使ってかくことができようにする。③共同製作の楽しさを感じられるようにする。④「試す」ことを取り入れ、自信がつくようにする。⑤偶然できる作品など、図工の楽しさを味わえるようにする。2チームとも前時でできた泡の作品が違うので不安だった。Aチームは泡作りというよりは泡でかきながら構想していた。これでいいのかな？Bチームは偶然の泡の色の重なりを考えながらしていた。展開も思った通りに進んだ。みんなひらめいていたので、途中で止めることなく、個別の声かけて進めた。描画材料に対してこだわっている子があまりいなかったが、チョークをこすってばかしている子もいた。描画材料は相談しながら準備した。
参会者	・計画の綿密さが際立っていた。準備が素晴らしかった。 ・子どもたちは活動中、目がキラキラしていた。 ・効果的なタブレットの活用ができていた。説明の提示の時に向きを変えたらもっと発想が広がったかも。 ・ゴールイメージの線引きはどうしているのか。 ・子どもに作品の説明をどこまで語らせるか。難しいと思った。 ・場の設定がよく、対話が生まれていた。 ・配置や道具など活発な活動につながっていた。 ・声かけにより、形や色に注目させることができていた。 ・共有がスムーズにできていた。 ・ひらめきポイントは中間指導で出した方がいいのかどうか。 ・泡を枠で囲まない方が作品としていいのかどうか。 ・題材選びが良い。共同的は学びの場があり、対話も生まれ安心して活動できていた。 ・相互評価の場面があり良かった。 ・いろいろな自己決定（描画材料・かきたいもの）の場があってよかった。 ・想像する力、空想する力、見いだす力がついていたのではないかな。 ・準備（板書等）が良かった。

授業者	今回の授業はもっとしたかったのに・・・という感じで終わるのでいいと思っていた。次の時間にさらにかきこみ、その後に鑑賞をする予定でいる。なので、本時では作品の説明をあまり聞きすぎず、次の鑑賞の時に評価してもらう良さを感じてほしい。泡を囲むことに関しては、教材研究の時に読んだ本には囲みをしないというものもあった。実際に自分たちで試してみたときに、囲んだ方がよかったものもあったので、授業ではあえて囲まないと言わず、塗りつぶすことはダメとだけ注意した。ひらめきポイントについては、子どもたちから出てくるのは難しいのではと考えた。また、活動時間を多く取りたかったので、こちらから提示した。
助言者	【豊かにかかわり】 何を・何で・どのように＋形・色・イメージ 【つながり】 ひと・もの・こと 地域・社会・協働的な活動→他の学年が見てコメントなどをもらう 教材研究をすると、子どものつまずきが見えてくる。実際にやってみて、検討する時間が大切。 主体的・対話的な学び、つくり・つくりかえ・つくる、振り返るがありとても良かった。鑑賞と表現が相互に関連するサイクルが回り続けるようにできていた。2年生なのに、ねらいに沿ったICTの活用ができていた。子どもの発達や興味関心に合っていたか、教師の指導や授業を見直すことが大事。 来年に向けて、子どもの主体性を引き出すような工夫が大切。技能は、示しすぎずに子どもが見つかるようにしていくと良い。子どもに自由にさせてみて、子どもが見つけたものを紹介してもいい。声かけは言葉を精選する。「作品を作ろう。」ではなく「変身させよう。」と変える。「上手だね。」より「面白いね。」と声かけ。「食パンに見える。」と子どもが言ったときは、「食べ物に見えたんだね。」と汎化していくといい。